

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】令和 2 年 3 月 5 日 (2020.3.5)

【公開番号】特開 2019-105872 (P2019-105872A)

【公開日】令和 1 年 6 月 27 日 (2019.6.27)

【年通号数】公開・登録公報 2019-025

【出願番号】特願 2017-236224 (P2017-236224)

【国際特許分類】

G 0 8 G 1/16 (2006.01)

B 6 0 W 40/08 (2012.01)

G 0 6 T 7/00 (2017.01)

B 6 0 K 28/06 (2006.01)

【F I】

G 0 8 G 1/16 F

B 6 0 W 40/08

G 0 6 T 7/00 6 6 0 B

B 6 0 K 28/06 Z

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 1 月 16 日 (2020.1.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1】

運転者の頭部 (H d) を写すように撮影領域 (40) が規定された撮像部 (32) を有する車両 (A) において、前記撮像部にて撮像された画像 (P i) の情報に基づき、前記運転者の異常姿勢を検知する異常検知装置であって、

前記撮影領域のうちで、前記運転者の姿勢崩れにより、正常姿勢から前記異常姿勢に遷移する過程で前記頭部が位置すると想定される範囲に、少なくとも一つの予兆領域 (42) を規定する領域規定部 (73) と、

前記予兆領域に前記頭部があるか否かを判断し、前記予兆領域に前記頭部が逗留した場合に、前記運転者が前記異常姿勢の状態にあると判定する姿勢判定部 (74) と、
を備える異常検知装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 9】

運転者の頭部 (H d) を写すように撮影領域 (40) が規定された撮像部 (32) を有する車両 (A) において、前記撮像部にて撮像された画像 (P i) の情報に基づき、前記運転者の異常姿勢を検知する異常検知プログラムであって、

少なくとも一つの処理部 (61) を、

前記撮影領域のうちで、前記運転者の姿勢崩れにより、正常姿勢から前記異常姿勢に遷移する過程で前記頭部が位置すると想定される範囲に、少なくとも一つの予兆領域 (42) を規定する領域規定部 (73) と、

前記予兆領域に前記頭部があるか否かを判断し、前記予兆領域に前記頭部が逗留した場

合に、前記運転者が前記異常姿勢の状態にあると判定する姿勢判定部（７４）として機能させる異常検知プログラム。

【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００６

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００６】

上記目的を達成するため、開示された一つの態様は、運転者の頭部（Ｈｄ）を写すように撮影領域（４０）が規定された撮像部（３２）を有する車両（Ａ）において、撮像部にて撮像された画像（Ｐｉ）の情報に基づき、運転者の異常姿勢を検知する異常検知装置であって、撮影領域のうちで、運転者の姿勢崩れにより、正常姿勢から異常姿勢に遷移する過程で頭部が位置すると想定される範囲に、少なくとも一つの予兆領域（４２）を規定する領域規定部（７３）と、予兆領域に頭部があるか否かを判断し、予兆領域に頭部が逗留した場合に、運転者が異常姿勢の状態にあると判定する姿勢判定部（７４）と、を備える異常検知装置とされる。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００７

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００７】

また、開示された一つの態様は、運転者の頭部（Ｈｄ）を写すように撮影領域（４０）が規定された撮像部（３２）を有する車両（Ａ）において、撮像部にて撮像された画像（Ｐｉ）の情報に基づき、運転者の異常姿勢を検知する異常検知プログラムであって、少なくとも一つの処理部（６１）を、撮影領域のうちで、運転者の姿勢崩れにより、正常姿勢から異常姿勢に遷移する過程で頭部が位置すると想定される範囲に、少なくとも一つの予兆領域（４２）を規定する領域規定部（７３）と、予兆領域に頭部があるか否かを判断し、予兆領域に頭部が逗留した場合に、運転者が異常姿勢の状態にあると判定する姿勢判定部（７４）として機能させる異常検知プログラムとされる。